

項目	これまでの委員からのご意見等	今後の方向性
全般	<p>① 国産鶏の定義や位置づけを明確にした上で、振興やPRを図って行くべき。</p> <p>② 国産鶏とは、改良増殖目標の示す方向に沿って、国、県、民間の連携の下に育種改良された種鶏から生産された鶏のことをいう。</p> <p>③ 鶏に関してはコマーシャル鶏の種鶏の殆どが海外育種会社で改良されている状況の中、改良増殖目標は何のために誰のために策定するのか、明確にすべき。根底には「国産鶏のシェア拡大」があるのではないか。</p> <p>④ 採卵鶏やブロイラーの能力目標までは及ばないものの、国産鶏もこれに向かっていくという観点からも、改良増殖目標は意味がある。</p> <p>⑤ 改良増殖目標の目的は、農家レベルで求められる「採卵鶏、ブロイラー」の能力水準を示すとともに、国産鶏の改良の方向性と指針を示すこと。</p> <p>(1) 採卵鶏は、能力水準の達成に向けた改良を進めるとともに、特色のある能力を有する実用鶏を産み出す（「HU値が高い」、「卵殻強度に優れる」など）の特徴を持たせる。）。</p> <p>(2) ブロイラーについては、能力水準の達成は困難なことから、数値目標の示された形質の能力向上を進めながら、特色のある能力を有する銘柄鶏・地鶏の改良に重点を置く。</p> <p>⑥ 改良増殖目標数値は外国鶏を日本で飼養する場合の目標になっていることを明示すべきではないか。また、消費者には殆ど食している一般鶏肉は外国鶏であることを知ってもらう必要があるのではないか。</p>	<p>● 国産鶏とは、「国内で飼養された鶏」と言われることから、改良増殖目標において国産鶏種としてその定義は、「国、都道府県、民間の関係機関の連携の下に日本国内で育種改良された種鶏と、これらから生産された実用鶏」と明記。また、外国鶏種とは、「海外で育種改良された種鶏と、これらから生産された実用鶏」と明記。</p> <p>● 飼料要求率等を始めとする現行の数値目標については、農家レベルで求められる能力水準を示す上でも、また、国産鶏種の改良方向を示す上でも引き続き明示。</p> <p>● 肉用鶏のうち、全国各地で在来種等を利用して生産されている地鶏等については、ブロイラーとは別に消費者の多様なニーズに対応した目標を設定。</p>

○ 改良目標

項目	これまでの委員からのご意見等	今後の方向性
飼料効率、生産能力等	<p><b>【卵用鶏】</b></p> <p>① 卵用鶏に関して飼料要求率は既に2.0を切っており、それ以上の改良は必要ない。むしろ、長期飼養の視点から、残存性（産卵期間の持続性）が今後重要。</p> <p>② これまでと同様に産卵率、飼料要求率、ブロイラーの体重のような経済的な形質の能力向上に重点を置く必要性が薄らいできているため、例えば、「卵重がM級となる産卵期間の持続性」、「病気に対する強健性」等を重視するべきではないか。</p> <p><b>【ブロイラー】</b></p> <p>① 農家で飼育される鶏の能力水準は、非常に高くなっている。ブロイラーの体重など現在の改良増殖目標を上回る形質さえある。</p> <p>② ブロイラーの成績は（増体性が向上し）現行目標をすでに達成しているが、国産鶏の実態も顧みる必要。</p> <p>③ ブロイラーについては、短期間増体能力（産肉能力）の改良が絶対目標である。日本の高齢化が進む時代に安価で薄味な鶏肉需要は増加し、若年層においても唐揚げに代表されるようブロイラーの消費は増加すると考えられ、今後は出荷日齢が短く、体重も2.9kgの出荷体重が適正サイズと思う。</p>	<p>● 卵用鶏及びブロイラーに係る飼料要求率を始めとする現行の数値目標については、農家レベルで求められる能力水準を示す上でも、また、国産鶏種の改良方向を示す上でも引き続き明示。（再掲）</p> <p>● ただし、各指標に係る目標設定の根拠となるデータが不足しており、また、ブロイラーについては国産鶏種の現状とは乖離しているという問題もある中、具体的な数値目標の考え方について検討。</p> <p>● 適度な卵重の産卵期間の持続性向上のためには、改良だけでなく産卵後半に低粗蛋白飼料を給与することで加齢に伴う卵重増加を抑制する飼養管理技術も有効であることから、このことについても「能力向上に資する取組」の中で整理。</p>
	<p><b>【地鶏等】</b></p> <p>① 地鶏等消費が拡大しない原因にはコスト問題があり、これを少しでも改善するよう努力すべきである。</p>	<p>● 地鶏等については、肉用鶏の中のブロイラーとは別途に項目立てするが、改良目標については、各銘柄によって特徴や性能等が異なるため、飼養期間や目標体重等の設定状況も多</p>

<p>② 県単位、銘柄単位だけでなく、全国的な取組も加えてPRすべき。</p> <p>③ 地鶏は多様なことから、数値目標は難しく、定性的な表現で地鶏の振興を明記してはどうか。</p> <p>④ 地鶏の数値目標については、各県で違うので、各県に任せれば良いのではないか。</p> <p>⑤ 地鶏や純粋国産鶏については、別途目標値を検討し公表すべきではないか。</p> <p>⑥ 銘柄鶏や地鶏であっても生産コストの観点から、農家で求められる能力レベルを考慮した改良を進めるべきで、飼育期間の短縮や飼料要求率の改善、種鶏の産卵能力の向上が求められる。</p> <p>⑦ 多様な地鶏がある中で、数値目標を定め、公表することは難しい。このため、改善を図る能力・特徴を明示し、定性的な改良の方向を示すべきである。</p>	<p>様であることから、共通に適用できる定性的な目標を記述。</p> <p>● この場合、コスト低減という視点から、増体性と育成率や繁殖性とのバランスのとれた能力向上が重要。</p>
--	---

○能力向上に資する取組

項目	これまでの委員からのご意見等	今後の方向性
改良手法 (国産鶏 の系統造 成等)	<p>① 国（家畜改良センター）、都道府県、民間が連携して鶏の改良を進めるべき。</p> <p>② 鳥インフルエンザの発生に備え、重要な系統は、国、県、民間の連携で2か所以上の場所で飼育される必要がある。</p> <p>③ 海外育種会社は主として胸肉の歩留向上を目標にしており、日本人消費者のもも肉志向とはミスマッチしており、国産鶏のもも肉歩留向上品種改良を進めていくべきである。</p> <p>④ 日本鶏等の特徴ある鶏資源を活用した生産性の高い肉用鶏の開発と生産供給方式の構築。</p> <p>⑤ 鶏も可能であればSNPに取り組んではどうか。</p> <p>⑥ 鶏のSNP分析については、ブロイラーの育種企業のトップ2社でかなりの投資をしてSNP分析を育種に応用し、ある程度の成果が出ている。我が国でも早く試してみる必要がある。ただし、かなりの投資が必要であり、過度な期待は禁物。また、利用可能なSNPチップを我が国が入手可能なのか確認が必要。</p> <p>⑦ SNP情報を利用した育種については、世代間隔が短く個体数も多い鶏では、かなりの投資が必要なわりには大きな改良は期待しにくい。遺伝子情報の利用ということにして、「有用遺伝子情報の収集に努めるとともに、利用の可能性を検討する。」としてはどうか。</p> <p>⑧ 系統造成の部分に「遺伝的能力評価に基づく種鶏の選抜及び利用を図る。」を追記してはどうか。</p> <p>⑨ 地鶏のシェアを拡大するにも地鶏の育種改良には、素材鶏の維持の経費や人件費もかかることから、例えば国は雄鶏の育種を行い、都道府県は雌鶏の育種を行うなど国、都道府県等による育種改良方式の確立が必要ではないか。</p>	<p>● 「改良手法」の中で国（家畜改良センター）、都道府県、民間の具体的な連携体制について記述。</p> <p>● 肉用鶏について、もも肉の生産割合に着目した改良は困難ではないか。</p> <p>● SNPについては、畜草研と秋田県等が地鶏において増体に関与するSNPを発見したとの報告もあり、有用遺伝子情報の収集に努め、育種改良への利用の可能性を検討。</p>

	<p>⑩ 在来系統の遺伝子資源の維持は文化サイドから大切。</p>	
<p>飼養・衛生管理、飼料用米の活用</p>	<p>① 飼料用米を利用した鶏の育種改良を進めてほしい。</p> <p>② 現時点で、遺伝的に米の消化吸収能力などに優れた鶏作りは、難しいと思われる。飼料用米を利用した飼料の配合や飼育方法を確立し、適性のある鶏の品種等を見出すのが先決と思われる。</p> <p>③ 改良増殖目標において、遺伝的な能力の向上に加え、アニマルウェルフェアや飼料米の給与などの国産飼料の給与に配慮した飼養管理技術の改善を記述する必要がある。</p> <p>④ 卵についての国産の訴求力を高めるには「特色」が必要であり、鶏、飼育方法、飼料用米のような国産の穀物を使った飼料などが重要。</p> <p>⑤ アニマルウェルフェアは、鶏本来の能力が発揮されるものであり、日本の風土にあった国産鶏ならではの切り口が重要。</p> <p>⑥ アニマルウェルフェアについては、鶏本来の生態が促され、最終的には生産者のコストが下がり利益が少しでも向上することが重要。 また、消費者側に立ったアニマルウェルフェアによる畜産物の普及を考える必要。</p> <p>⑦ 飼養環境については、健康志向の中、細菌に対する抗病性も欠かすことが出来ないと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 飼料用米の利用について、鶏は玄米でも粳米でも利用が高いことから、我が国の養鶏の特徴のひとつとして、消費者への情報提供も含め、生産から加工・販売までの主体的な取組を一層進める必要。</li> <li>● 我が国の飼養実態を踏まえた鶏の快適性（アニマルウェルフェア）の向上が重要。</li> <li>● 細菌に対する鶏の抗病性も重要であるが、食品の安全性確保の観点からは、鶏の衛生管理の徹底の取組が重要。</li> </ul>
<p>食味（肉用鶏）</p>	<p>① 「おいしさ」の指標は難しいかもしれないが、重要な課題である。</p> <p>② 「おいしさ」の指標は重要だが、非常に難しい。味の評価は単純ではない。</p> <p>③ 銘柄鶏、地鶏にとって、「触感・香り」「おいしさ」は、重要な事項である。「食味・風味」に関する数値目標を示すことは、難しいし、どのような物質が関与しているのかの分析も出来ていない。一方で、鶏肉・鶏卵の「おいしさ」に影響する「微量成分や香りの特定」が求められており、特定できれば、地鶏の消費者に対するセールスポイントとなる。</p> <p>④ 「おいしさ」に関する指標化や目標設定は困難。鶏肉の品質に関しては、肉の成熟度（飼育日令）、硬さ・柔らかさ（歯ごたえ）、胸肉・もも</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「おいしさ」の指標化の代わりに、鶏肉の品質に係る情報として、鶏種、飼育期間、飼育方法等に関する情報を提供すべきではないかとの提案があるため、第2回目の研究会で説明を聴取した上で議論。</li> <li>● 現段階では、「おいしさ」に関する指標化は難しいものの、将来的に消費者に対して地鶏や銘柄鶏とブロイラーとの違いを示していく上でも、おいしさの評価方法を検討。</li> </ul>

	<p>肉の違い、料理方法（フライ、煮込み、焼く）といういろいろな要素が複雑に絡むとともに、消費者の年齢層の好みの違い等に留意する必要がある。よって、消費者に鶏肉の品質に関連すると考えられる各種情報（鶏種、飼育期間、飼育方法等）を提供、あるいは判断の仕方（情報の見方）を教育し、最終的には、消費者の味覚、好みで判断してもらうことに尽きると考える。</p> <p>⑤ 食味については科学的知見が蓄積されているところであり、前回同様の記述でよいのではないか。</p> <p>⑥ 地鶏については、ブロイラーと比較し歯ごたえが良いが、硬い肉は本流にはならないため、ブロイラーほどでないソフトな歯ごたえの地鶏開発が必要。また、鶏肉について「おいしさ」を追求しても一般庶民では受け入れられないのではないか。</p>	
その他	<p>① 生産者だけでなく消費者や生活者の視点も検討が必要。</p> <p>② 今回の鶏家畜改良増殖目標において、新たな表示制度（在来種に準ずると考えられる国内で育種改良された国産鶏種まで広く含めた表示）の見直し、創出の必要性も書き込むとともに、国産鶏種、地鶏、外国鶏種の銘柄鶏について、その考え方（定義）、大まかな分類等について、新企画として例示する試みを行っていただきたい。</p> <p>③ 鶏改良増殖目標の果たすべき役割としては、各地鶏・銘柄鶏の大まかな類型ごとに、その主要な生産方法の違い（品種、飼育期間等）をわかりやすく説明、解説し、生産者だけでなく、消費者にとっても鶏肉を購入・消費を判断する上でのメルクマールとなるような各種情報を参考資料として提供すべきと考える。</p> <p>④ 「銘柄鶏」については、飼料にビタミンやハーブなどを少量添加するだけの鶏もいれば、高価な鶏種を丹念に飼育生産された鶏まで千差万別であることから、「鶏種」、「餌」、「飼料米」など分別して定義する必</p>	<p>● 新たな表示制度の必要性については、第2回目の研究会で説明を聴取した上で議論する。</p>

	<p>要があるのではないか。</p> <p>⑤ 地域密着（輸入穀物に頼らないこと）経営が成り立つ適正規模、また、卵肉兼用種に注目することが重要。</p>	
--	--	--